

自分の病気を識る上でも、他の医療機関に転医する時など、希望する方にカルテをお渡しします。



これまでカルテというものは患者さんの診療にあたつての医師の記録であり、医師が分かれば良いということで、患者さんは分かりにくいものでした。これからは病気について患者さんと医師がともに考え、さらに医療スタッフが意見を加えてゆくという方向にあります。

これを実現するためには患者さんと医師が、同じ画面を見ながらカルテを作つてゆく電子カルテの方法が最適です。

自分のカルテがほしい患者さんはいると思います。そういう方にお渡しして、分かりやすいようにするために電子カルテをつかいます。

血圧、検査データー、内視鏡写真など、カラー印刷でお渡しします。

血圧測定の結果、検査データーなど、何回か結果がたまりましたらグラフにしてお渡しします。

患者さんたちの医学に対する知識も高いものになつてきました。こういう患者さんの要望にこたえるため分かりやすい正確な医学データーを提供することが、コンピューターの力を借りることによってできるようになりました。